

番 号	10313												
効用の種類	ふれあいによる生理・心理的効用												
タイトル	園芸療法が著効を示したと思われる特別養護老人ホーム入居者の一症例												
概 容	施設入居者である認知症高齢者(80代男性)に対し、生活の質(QOL)の向上を目的として園芸療法を取り入れた症例についての紹介。日常生活動作(ADL)はバーサル・インデックス(BI)、認知機能はHDS-R、QOLの評価はQUIK-Rおよびフェイススケール(FS)を用いた。その結果、QUIK-R値には開始時の25点(不良)から終了時には8点(普通)に改善され、FS値は2週間後から改善が見られたことから、本事例は園芸療法によるQOL向上の成果事例と言える。												
内 容	<p>(目的) 特別養護老人ホームの認知症高齢者に対し、QOLの向上を目的として行った園芸療法の中で、自己記入式QOL評価スケール(以下QUIK-R)で著効が認められ、生活の質が改善されたと思われる症例について報告する。</p> <p>(調査方法) 対象は、特別養護老人ホームに入所する80代の男性とし、2006年6月から7月にかけての42日間に延べ25回の園芸療法プログラムを実施した。一回の時間は30分程度とし、園芸作業や野菜の観察を行った。評価方法は、日常生活動作(ADL)はバーサル・インデックス(以下BI)、認知機能はHDS-R、QOLの評価は、QUIK-Rおよびフェイススケール(以下FS)を用い、午後の活動時間と夕食前の時間の表情を記録した。</p> <p style="text-align: center;">第1表 プログラムと用いた植物</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>プログラム名</th> <th>植 物 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種まき</td> <td>ハツカダイコン、コスモス</td> </tr> <tr> <td>鉢植え</td> <td>ミニヒマワリ、アサガオ、サツマイモ、ジニア、コリウス</td> </tr> <tr> <td>挿し木</td> <td>アジサイ、コガシマ・デージー</td> </tr> <tr> <td>花壇づくり</td> <td>ギボウシ、キキョウ、斑入りドクダミ、アサギリソウ</td> </tr> <tr> <td>畑の観察</td> <td>トマト、ナス、スイカ、プリンスメロン、ピーマン、オクラ、ニガウリ等</td> </tr> </tbody> </table> <p>(結果および考察) 日常生活動作のBI、認知機能のHDS-Rは開始前後で変化はなかった。QUIK-R値は開始時の25点(不良)から終了時には8点(普通)と17ポイント改善された。FS値は開始当初は2ないし3の好ましくない表情が多かったが、開始後2週間からは3表情が見られなくなり、1の良い表情が多く観察されるようになった。行動面でも、体操への参加回数が増えるなど活動性が高まる様子や、情緒的な発言や支援者との会話が広がる様子も見られた。 園芸療法の導入により、対象者の主観的な評価であるQUIK-R値と客観的なFS値がほぼ同じ様に改善されたことから本事例は園芸療法によるQOLの成果事例といえる。</p>	プログラム名	植 物 名	種まき	ハツカダイコン、コスモス	鉢植え	ミニヒマワリ、アサガオ、サツマイモ、ジニア、コリウス	挿し木	アジサイ、コガシマ・デージー	花壇づくり	ギボウシ、キキョウ、斑入りドクダミ、アサギリソウ	畑の観察	トマト、ナス、スイカ、プリンスメロン、ピーマン、オクラ、ニガウリ等
プログラム名	植 物 名												
種まき	ハツカダイコン、コスモス												
鉢植え	ミニヒマワリ、アサガオ、サツマイモ、ジニア、コリウス												
挿し木	アジサイ、コガシマ・デージー												
花壇づくり	ギボウシ、キキョウ、斑入りドクダミ、アサギリソウ												
畑の観察	トマト、ナス、スイカ、プリンスメロン、ピーマン、オクラ、ニガウリ等												

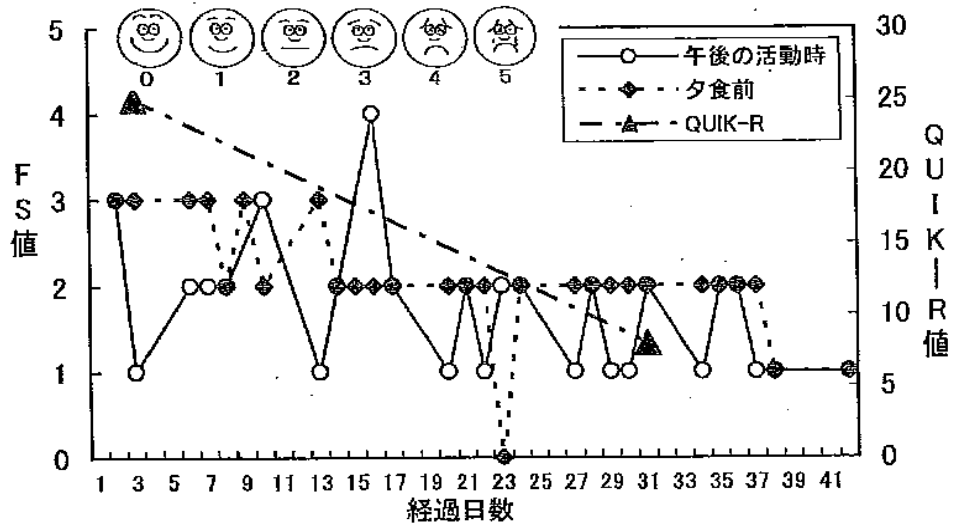
第2表 開始前後の評価項目値の変化

評価項目	開始時	終了時
BI (100点)	62点	62点
HDS-R (30点)	2点	3点

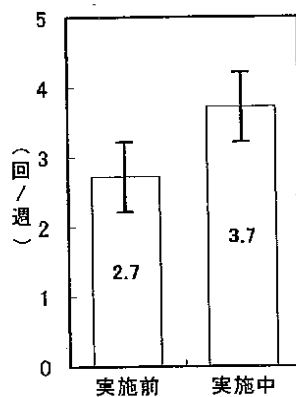
第3表 開始前後におけるQUIK-R値の変化

検査日	点数 50点	チェック 項目 5点	項目ごとの点数				評価
			身体機能 20点	情緒適応 10点	対人関係 10点	生活目標 10点	
6月9日	25	5	12	2	5	6	不良
7月7日	8	4	6	1	1	0	普通
28日後	-17	-1	-6	-1	-4	-6	2段階改善

内 容



第1図 フェイススケール値の推移と QUIK-R 値の変化



第2図 園芸療法開始前後 7 週間の体操への参加回数

出典

人間・植物関係学会雑誌 第7巻 別冊：44-45 .2007年  
外川哲男、豊田正博、中西保太郎、公文 康

備考